日本の空の下

福原麟太郎

雷鳥社

日本の空の下

福原麟太郎

雷鳥社

日本の空の下

著者略歴

明治27年（1894）広島県福山市に生る。
福山中学から東京高師に入り，岡倉由三郎の下で英語英文学を学ぶ。昭和4年より2年間，文部省在外研究員としてイギリスに赴き，ロンドン大学にてイズレール・ゴランツ博士の教えを受く。帰朝後，東京文理科大学にあり，昭和30年停年にて教授を辞す。現在 教育大学名誉教授。共立大学教授。文学博士，日本芸術院会員。
（主著）「われ愚人を愛す」「この世に生きること」「チャールズ・ラム伝」「野方閑居の記」「文学と文明」等。

昭和四十一年九月十五日　初版発行
昭和四十一年十月二十日　第二版発行

定価　四五〇円
〒　七〇円

著作者　福原麟太郎
発行者　里田旬
印刷者　横山豊

発行所　雷鳥社
東京都千代田区九段南二―二―八
千代田会館内
電話（二六一）四八五九番
振替　東京　九七〇八六番

印刷　横山印刷株式会社
製本　株式会社関山製本

落丁・乱丁がありましたらお取りかえいたします。

© 1966 Rintaro Fukuhara　Printed in Japan

日本の空の下　目次

I

日英友好　11
閑暇の自主性　15
西洋人の中の俳句　18
文化交流と交流の自然　23
身近にある政治　29
お正月の旧風景　33
栄典復活　37
無責任時代　40
『文学の伝統と交流』　44
学校教師の生活　53

日本人と外国語 56
文化の過去と未来 62
演劇について 66
一九六四年歳末 70
英語教育に望むこと 74
現代の病根 76
立身出世ルート今昔 81
英知をもって中道を 86
実行力と勇気を求めて 91
行儀作法 96
人間・世間の書を 99
漱石の考え方の癖 103
文化政策 107
明治四大文豪に思う 111

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.

II

読書のたのしみ 117
女性四題 121
イギリス的風光 126
森田たま女史 128
小酒井五一郎氏を弔う 130
私の選ぶ女性 133
私の感銘した本 138
随筆の術 140
屑本図書館 142
私の愛する詩文 144
花は散らで残りしなり 145
歌がるた 148

儀　礼　151
サー・ウィンストン・チャーチル　154
T・S・エリオット追憶　157
ランドセル　164
恋歌の贈答　166
歌舞伎芝居好き　170
細かな読書　176
煙草をやめる話　180
能の美的効果　182
木俣修君へおくる言葉　185
伝統の芸能として　187

今は昔 195
机によって 196
都市美について 200
生意気な本 202
『詩心巡礼』 204
諸賞を受けて 206
歳末閑あり 208
まぜごはん 211
わが武蔵野 213
汽車通学 217
早春譜 219
彼岸のあとさき 222
書庫のながめ 227
わが身の上をきかれて 232
日本の秋の空の下 235

放送の思い出　239
あとがき　243
発表雑誌新聞一覧　244

日本の空の下

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

I

日英友好

咲く花のにおうがごときアレキサンドラ姫と新聞は伝えている。美しい若い姫宮を迎えて日本は一きわ色めいたようである。ご滞在の一週間を、姫宮はお心やすく楽しく親しく過されたであろうか。日本国民の誠意をお持ち帰りいただきたい。

日本が国を開いたころ、英国はその栄華の絶頂にあった。それは一八七〇年のころであった。われわれは英国の文明を模範としてこれを習おうとした。ミルの自由論とか、スマイルズの自助論（『西国立志篇』）とか、ダーウィンの進化論とかいうものが、明治の思想的基盤を築いたのであった。日清戦争、日露戦争、日英同盟というふうに年代記は重なってゆき友好の度も加わってきた。その日英同盟が崩れるころから世界の情勢がけわしくなって行ったのであった。

日英同盟廃棄後十年、一九三一年のホィテカー年鑑を見ると、まだしかし、日本皇帝は十五番

目のガーター勲章を贈られており、二十四人に限られるO・M勲功章の一つはアドミラル・トーゴーが帯びていると書いてある。O・Mにあたる人はいま日本にいないらしいが、こんどアレキサンドラ姫の来日はガーター勲章の復活をも意味するものだという。世界はふたたび平和のバラ色に飾られ始めたようだ。

ガーター勲章には、「オニ・ソワ・キ・マル・イ・パンス」(Honi soit qui mal y pense) という昔のフランス語の銘がはいっているのだが、それは「悪く考えるものに禍あれ」という意味である。十四世紀の英王エドワード三世がウィンザー宮廷での舞踏会でソールズベリー伯爵夫人の青いガーターが床に落ちたのを拾い上げて、わが膝に結びつけながら、そう言った。そしてそれを縁にガーター勲章が制定され、この銘は英国王室の紋章にも記されるに至ったのだというのが言い伝えである。実際、悪く考えるものに禍あれという善意に満ちた人間社会がこれから次第に出現することを望む。

アレキサンドラ姫は、英国と日本とは、島国で、互いによく似たところがあるから、良い友だちでありたいという意味のことを、どこかで言われたということだが、それはわれわれも古くから学校で教えられたことであった。いかにも大陸に隣りし、大洋をひかえた、同じような大きさの島国で、共に万世一系の国王がしろしめすことからして、よく似ていた。そしてちかごろ民主主義に従って、元首は象徴であるとする考えも軌を一にしているのである。そして英国がつぎつ

ぎと植民地を独立させて、英国というのはあの島だけというに近くなってゆけば、東西ますます相似てくる。

しかし人口を考えると、彼はわれわれの半分しかない。そして福祉国家としての英国は、われわれより恐らく一世紀早い発達を示し、国土は緑の野、カシワの巨木、なだらかな丘の起伏、その間を流れる銀の川々に白鳥が浮かび、それらの白鳥はみな女王の飼育されているものとされているなど、いわば公園の国である。都市は都市（シティ）と言わず町（タウン）という。まだ十四世紀の英王国が続いている趣で、その上、富み栄えている点では日本と異なる。

人間としていうと、彼らは概して重厚で我慢づよく、理論になずまず、実行を尊ぶ。頑強に個を守り、個人の意見を主張するけれども、衆議の決するや豁然（かつぜん）としてそれにつく。そういう点ではまたさらにわれわれと似ていないのではないか。そういう、似ていない点については、われわれはこれを学ぶべきであると思う。彼らはこの第二次戦後、彼らの弱点とせられていたことさえ克服して、新しい文明の分野を開拓したのではなかったか。

たとえば、最近十数年の間に、彼らは航空機製造業者として世界の市場に進出した。彼らの映画は戦前まではなはだ低調であったが、戦後は、それによって国富を増すほどの成功を収めた。彼らは、舞踊音楽において、十七世紀以降はほとんど見るに足りないとさえされていたのだが、近年、マーゴー・フォンテーンその他、ロイアル・バレー団の名声の高きことは、驚くべきでは

ないか。日本も種々の方面で新しい才能技術を発展せしめたが、ただ一つ、彼らが再起興国という意気込みを持ってそれらの新事業を起したらしいことは、国民の心がけとして学ぶべきではなかろうか。

そうして細目にわたって論じてゆけば、異論もいろいろ起ろうが、総括的に言って、両国民の違っている点は、英国人が北ヨーロッパ的特質を多く備えた民族であるのに対して、われわれ日本人が、むしろ南方的、地中海的性質を多く持っている民族であるということであろう。われわれは癇癪持で忍耐力に乏しく、空理空論に興ずるところがある。両国民の相似ているところは、それにもかかわらず、その文化史の根本としてはなはだ近い。彼らは西の海にあって、ヨーロッパ大陸の文化の吹きだまりになっており、自然と、南北の文明を一つに融合せしめる運命を授けられているし、東海のわれわれは、唐天竺ばかりでなく、西の大陸から来るあらゆる文明を集めて、新しい人間の文明を築こうとしているものなのだ。万歳。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.